2章　総合問題2

問題

【1】

解答

世代間の断絶を論じると，若者の疎外のみが強調されるが，意思伝達とは対話であり，若者と年長者の両者が世代間の断絶という事実を認識しなければ相互理解は不可能である。

〔80字〕

別解

真の意思伝達とは対話であり，若者と年長者の両者が世代間の断絶，つまりお互いに共通の語彙を持っていないということを理解すれば，若者と年長者の意思伝達は可能になる。

〔80字〕

解説

【構成・指針】

第1段落：世代間の断絶を論じると，若者の疎外のみ強調される

→実際には若者と年長者は，両者に共通する語彙がないため，意思伝達ができない〔主題〕

第2段落：異なる言語間の意思伝達は難しいが，道は開けることもある〔例証〕

第3段落：文化背景が違いながら一見共通する言語を有する場合は，異なる言語間の意思伝達よりも問題がさらに難しくなる〔例証〕

第4段落：世代間の断絶（＝異なる言語を有する）という事実を認識する

→そうすれば若者と年長者は意思伝達ができるようになる〔結論〕

主題→主題の例証→結論という論旨の展開になっている。

第1段落と第4段落を論旨に沿ってまとめる。

全訳

世代間の断絶に関するほとんどの議論では，若者の疎外が強調される。一方で，年長者の疎外は，おそらく完全に見過ごされているだろう。解説者たちが忘れていることは，真の意思伝達とは対話であり，対話の両当事者に共通の語彙が欠けているということである。

例えば，1人が中国で，もう1人がアメリカで育てられた場合のように，根本的に異なる文化で育った，違う言語を話す2人が意思を伝達する際に起こる問題を，我々はよく知っている。言語だけではなく，2人の経験を同じ尺度で比較できないため，彼らはお互いに理解できないのである。しかし，相手の言語を学ぼうとする意欲や両者の文化の前提を探究しようとする意欲があれば，対話への道が開けることもある。それは可能なことなのだが，たいていは実行されないのである。

アメリカ人とイングランド人にとっての英語，あるいはスペイン人とラテンアメリカ人にとってのスペイン語のように，共通の言語とみなされているものを共有する，2つの異なる文化で育ってきた話者の場合，問題がさらに微妙なため，より難解になる。双方が共通の言語ではなくて，いくつかの「同じ」単語が異なった，時には根本的に違う意味になる，2つ

の言語を話していることを認識して初めて，真の意思伝達が可能となる。その上，もし彼らが進んで話に耳を傾け，質問をしようとするならば，彼らは会話を始めることができ，しかも楽しく会話することができるようになる。

このことは２つの世代間の問題でもある。深く，新しい，先例のない世界規模の世代間の断絶という事実が，若者と年長者の両者の心の中に，いったんしっかりと認識されたならば，意思伝達は再び確立され得る。しかし大人が，昔の両親や先生がそうであるように，自分は内省することだけが必要で，自分の若い頃を引き合いに出せば，目の前の若者を理解できると考える限りは，意思伝達は不可能なのである。

注

ℓ.1 ◇Generation Gap「世代間の断絶」
◇the young ＝ young people

ℓ.2 ◇wholly ＝ completely; entirely

ℓ.3 ◇dialogue ＝ a conversation or talk
○ dia ＝ across であって，two ではない。
◇party ＝ a person or group forming one side in an agreement dispute

ℓ.6 ◇rear ＝ bring up and educate
◇one … the other ～「（２つあるうちの）１つ…残りの１つ～」

ℓ.7 ◇not only A but also B「A だけでなく B も」
◇incommensurability ＜ incommensurable ＝ that cannot be compared; having no common measure

ℓ.8 ◇prevent A from …*ing*「A が…するのを妨げる」
◇ a willingness { to learn ～ / [and] / to explore … }

ℓ.9 ◇premise ＝ a statement or idea on which reasoning is based

ℓ.11 ◇subtle「かすかな；微妙な」

ℓ.12 ◇a common tongue「共通の言語」

ℓ.15 ◇which：先行詞は two languages
◇divergent ＝ going in a different direction; moving away or apart

ℓ.18 ◇once ＝ as soon as

ℓ.19 ◇establish ＝ cause people to accept（a belief, custom, etc.）

ℓ.21 ◇invoke ＝ call upon, in prayer or as a witness

ℓ.22 ◇the youth ＝《集合名詞》young men and women

【2】

解答

1 **f**　2 **e**　3 **b**　4 **a**

解説

1　続く第３段落の冒頭に，「このことはヘリウムにも当てはまる」とあるので，This とい

う指示代名詞が何を受けるのかを考える。続けて，第３段落第３文に「エネルギーを使えば大気中のヘリウムを抽出することができる」とあるが，第１段落にあるように，ヘリウムは大気中に入っていったものであるから，「抽出する」とは「取り戻す」ことである。選択肢を見ると，「エネルギーを使って取り戻す（リサイクルする）」という表現が，アルミニウムなどの金属を例に挙げて，**f** に見られる。その冒頭の Why *not*? が第１段落末尾の it can*not* be regained を受けることになり，流れもよくつながるので，これが正解。第１～４段落までは，第１段落の最後で述べた Once there, it cannot be regained. という主張に対する反論検証を第２，３段落で行って，結局第４段落でその主張の正しさを再確認するという流れである。

2　続く第６段落の冒頭に，「特にヘリウムに富む天然ガス田がある」という表現があるので，この前に「天然ガス田にヘリウムが含まれている」という一般論が述べられていると考えるのが自然である。そこでそのような記述を選択肢中に探すと，**e** に「ヘリウムは岩石中の窪みに溜まった天然ガスに混じり込んできた」とある。**d** にも「ヘリウムの主な供給源は，ヘリウムが入り込んだ天然ガス田である」という表現があるが，こちらの方は本文では後の方で言及されている超低温に関する記述を含むため，文脈に合わない。よって，ここに入るのは **e** である。

なお，直前の第４段落で大気中に漏出する水素とヘリウムについて述べられており，**c** の冒頭の１文 In other words, the earth's atmosphere leaks.（言い換えると，地球の大気は漏出するのだ。）は不自然。

3　直前の第７段落に，「なぜヘリウムが必要なのか」と言って，その軽さという性質と，気球という用途が挙げられている。後の第９段落にも，ヘリウムの化学的安定性という性質と，それがための，溶接での使い道が挙げられている。とすれば，第８段落にもヘリウムの性質と，それを活かした使い道への言及があるのが自然である。そのような選択肢は，**b** にあり，そこで挙げられている性質と用途は，水への不溶性と，「減圧症」を防ぐための高圧呼吸用空気の窒素の代用である。第７段落最終文に Helium is absolutely nonflammable and is ～ とあるのに続いて，**b** に Helium *also* is the gas that … と also が使われていることもヒントになる。

4　直前の第10段落には，絶対14度という超低温でも気体の状態を保つヘリウムの特性についての言及があるので，第11段落にもやはり超低温に関する記述が続くことが予想される。超低温に関する記述を含む選択肢は，**a** と **d** がある。**a** では，さらに低い絶対４度で液化し，絶対零度までその状態を保つヘリウムの特性と，超伝導での用途が述べられており，第７段落から第10段落までの，ヘリウムの性質と用途を述べた文の流れによく合っている。一方の **d** は，絶対零度付近で液化するヘリウムの特性について触れずに，その科学的価値を説明しているのが唐突で，後半のヘリウムの供給源などに関する記述も，第３段落，第５段落〔**e**〕，第６段落と重複していて流れが悪い。よって，ここに入るのは **a** である。

全訳

私は1960年に，「かけがえのないヘリウムが浪費されている。ヘリウムは一旦浪費すると永久に失われてしまう。いつか我々は後悔することになるだろう。」と評論を書いて，警鐘

を鳴らした。それから何年も経ったのに，我々はいまだにヘリウムをものすごい勢いで浪費している。産出されるヘリウムの大半は，ただ大気中に流れ出るがままにされている。一旦外に出てしまえば，ヘリウムは二度と取り戻すことはできない。

f　なぜできないのか。結局のところ，ごく少数の放射性元素を除く，さまざまな元素（ヘリウムもその内の１つである）は不滅ではないのか。我々はアルミニウムや他の金属を使いはするけれども，それらが本当に使い尽くされることは決してない。というのも，エネルギーこそかかるが，我々はいつでも金属をリサイクルして，それらを再び手に入れることができるからだ。

このことはヘリウムにも当てはまると言えるだろう。百万ポンドの大気中には４分の３ポンドのヘリウムが含まれている。我々にエネルギーを使う気があれば，周りの大気中からヘリウムを抽出することは可能だ。もちろん，こうやって手に入れたヘリウムは非常に高くつくことになるだろう。

だが，非常に軽くて，それを引き留めておくには地球の引力だけでは不十分な気体が２つあるのだ。水素とヘリウムは，ゆっくりではあるが，容赦なく，大気中から宇宙空間に漏出し，失われてしまう。広大な地球の大洋中の原子の３分の２が水素であるから，このゆっくりした漏出の割合でいけば，地球が現在の状態である限り，水素は大量にとどまり続けるだろう。しかしながら，ヘリウムはまったくの希少元素で，こちらの場合は大気中からの漏出は深刻である。

e　なぜ，ヘリウムはまだあるのだろうか。なぜ，とっくに漏出して，なくなっていないのか。ヘリウムの起源が，なぜまだ我々の周りにヘリウムが存在するのかを説明する手助けとなる。ヘリウムは放射性ウランとトリウム原子の崩壊を通じて，極めてゆっくりと生成される。地球が存在してきた何十億年もの年月の間に，ヘリウムは岩石中に蓄積し，特に，窪みに溜まった天然ガスと混じり合ってきた。我々は，この蓄積したヘリウムを，ウランとトリウムの更なる崩壊によって補充され得るよりも何十億倍も速く，浪費している。

テキサス州とワイオミング州には，特にヘリウムに富む天然ガス田がいくつかあり，実は，そこで全世界のヘリウム供給量の 90 パーセント以上が産出されている。しかしながら，これらのガス田は主に天然ガスを得るために掘られたもので，しかも天然ガスが大量に必要とされているため，結果的に，使い切れないほどのヘリウムが産出されているのだ。最も賢明な手段は，ヘリウムを天然ガスから分離し，将来の使用のために備蓄することだろうが，これをするとなると費用がかかる。こうした理由で，これらのガス田から得られるヘリウムの約４分の３が，ただ大気中に泡となって消えて行くままにされている ―― そして，おさらばだ。

なぜ我々にはヘリウムが必要なのか。１つには，これが水素の次に最も軽い気体だからだ。ヘリウムは気球に使われている。水素の方がさらによいのだが，水素は非常に燃えやすい（ヒンデンブルグ号を思い出して欲しい）。ヘリウムは絶対的な不燃物で，扱うのがまったく安全なのだ。

b　ヘリウムは水に最も溶けにくい気体でもある。高圧下で空気を吸わなくてはならない時に，ヘリウムは窒素の代わりに使われる。痛みを伴い，命に関わる状態である「減圧症」にかかる危険性を，ヘリウムは減らすのだ。

ヘリウムは他のどの元素とも，化学的に反応しない。それゆえ，ヘリウムは溶接時の高温の炎の周囲を覆う気体として使われている。溶接される物質は，空気とは反応するが，ヘリウムとは反応しない。だから，溶接はより完璧に行われ得るのだ。

また一方，次のことを考えてみよう。絶対温度14度になると，１つの例外を除き，あらゆる物質が凍結して固体になる。酸素も窒素も水素もすべて固体になる。まだ気体の状態を保つのは，ヘリウムだけなのだ。

a　ヘリウムは絶対温度４度になって初めて液体になり，絶対零度までずっとその状態を保つ。今のところ液体ヘリウムを使うのが，超伝導に必要な低温を維持する最もよい方法だ。実際には，今では我々はそれよりもずっと高い温度で超伝導を起こす物質を発見しているが，それがいつ実用できるのかは，まだわからない。目下のところ，我々は液体ヘリウムに頼り続けなくてはならないのだ。計画中の超伝導式超衝突型加速器を稼動させ続けるためには，毎年，何百万立方フィートものヘリウムが必要になるだろう。

＜不要な選択肢＞

c　言い換えると，地球の大気は漏出するのである。だが，その漏出というのは，主に最も軽い分子たちに当てはまる。酸素と窒素は重いので，そのほんの一部しか脱出速度に到達できない。だから，最初の生成以来，地球が失った酸素と窒素は多くない。一方，水素とヘリウムは簡単に脱出速度までもっていくことができる。それゆえ，今日の地球の大気中に，取り立てて言うほどの水素やヘリウムが何も残っていないのは，驚くには当たらない。

d　絶対零度に近い温度の研究を可能にするのはヘリウムだけなので，これは純粋科学と応用科学の両方で，極めて重要な元素となった。大気から供給されるヘリウムはごくわずかで，最も重要な供給源は天然ガス田である。地殻の中でウランとトリウムの崩壊によって生じたヘリウムは，その中ににじみ込んでいることがままあるのだ。（ニューメキシコ州にある）最も豊富なガス田として知られるガス田から産出される天然ガスは，7.5パーセントがヘリウムである。

注

本文

ℓ.1　◇ irreplaceable「かけがえのない」

選択肢 **f**

◇ element「元素」

◇ immortal「不滅の」

◇ radioactive「放射性の」

◇ use up ～「～を使い尽くす」

◇ albeit ～「たとえ～であろうとも」

本文

ℓ.5　◇ pound「ポンド」重量の単位。１ポンドは約454g。

ℓ.9　◇ gravity「重力；引力」

◇ be insufficient to …「…するのに不十分である」

◇ retain ～「～を保持する」

ℓ. 10 ◇ leak「漏れる」名詞形は leak，leakage（漏れ；漏出）。

選択肢 **e**

◇ thorium「トリウム」放射性の金属元素。

◇ accumulate「蓄積する」

本文

ℓ. 17　◇ mine ～「～を掘る」

ℓ. 21　◇ bubble off「泡となって消えていく」

ℓ. 24　◇ nonflammable「不燃性の」

選択肢 **a**

◇ superconductivity「超伝導」超低温で物質の電気抵抗がゼロになること。
　＜ superconduct「超伝導を起こす」

◇ supercollider「超衝突型加速器」電子・陽子などの荷電粒子を加速し，高エネルギーの粒子にする装置。素粒子の研究や医学・工業用に使われる。

選択肢 **c**

◇ molecule「分子」

◇ fraction「部分」＝ small part

◇ escape velocity「（地球の引力圏からの）脱出速度」

◇ to speak of「取り立てて言うほどの」

選択肢 **d**

◇ negligible「無視できるほど少ない」

◇ breakdown「崩壊」ここではヘリウム原子核（アルファ線）を放出するアルファ崩壊のこと。

◇ crust「皮」
　cf. earth's *crust*（地殻）

◇ seep into ～「～ににじみ込む」

【3】

解答

（1）ⓕ　（2）ⓗ　（3）ⓖ　（4）ⓙ　（5）ⓓ

解説

（1）「海水の色が青から緑に変わるのは，塩分の濃度の高低によって引き起こされるようだ。」主語は Variations と複数形なので，ⓕの seems を seem にしなければならない。本問のように主語と動詞が離れている時，数の一致はよく狙われるので注意。なお，主語の variation（変化）は，不可算名詞も可算名詞もあるが，本問の場合「個々の色の変化」なので，可算名詞で使われている。

（2）「リチャード・コネルは 1919 年から死ぬまで，フリーのフィクション作家であり，雑誌に発表された小説が 300 編を超えるという並外れた記録を持っていた。」「300 の～」や「400 の～」と表す時，hundred は形容詞として用いるので，hundred を複数形にしてはならない。よってⓗを three *hundred* stories としなければならない。

（3）「鉢巻は西洋ではラグビーやテニスの選手の間でよく見られるものである。しかし日本で鉢巻が持つ儀式的，情緒的意味を持っているところは他にないようだ。」nowhere は否定の副詞であり，それを文頭に出すと必ず倒置が起きる。よって ⓖ を do they seem としなければならない。なお，ⓑは a common sight に副詞の enough が加わったものであるが，enough は後ろから形容詞を修飾するので，a common enough sight の語順になっている。また，ⓘとⓙの間には目的格の関係代名詞が省略されている。

（4）「私たちの言うことは，それがどんなに取るに足らないものであっても，自分の中に根源を持っているに違いない。さもなければ他人の心を動かすことはないであろう。」代名詞の other は，① the other（特定の１人〔１つ〕），② others（不特定の人々〔もの〕），③ the others（特定の人々〔もの〕）という形のどれかで使われ，other だけで使われることはない。ここは文脈から「他の人」という意味で使われるのが適当なので，others とするのが正しい。

（5）「地図の機能が川を動かしたり，山を再配置したり，湖を埋めることではないのと同様に，辞書の機能も話し方を教えるものではない。」speak が他動詞として用いられる場合は「～（＝言葉，ある言語）を話す」の意味なので，ⓓ what to speak では「何語を話すべきか」という意味になり，文脈に合わない。自動詞と解すならば，what to speak ではなく how to speak（どうやって話すか；話し方）に変えなければならない。あるいは，what を生かすなら，他動詞の say に変えて，what to say（何を話すべきか）にする。なお，文全体は A is not B any more than C is D. ＝ A is no more B than C is D.（C が D でないのと同様に，A も B ではない。）の構文である。

【4】

解答

（1） **a**　（2） **b**　（3） **c**　（4） so that　（5） **c**　（6） **c**

（7） the community would be provided with a steady income

（8） Chelm　（9） trampled　（10） **c**

（11） ① Shmerel the Ox　② Gronam the Great Fool

解説

（1） いささか突拍子もない話で最初は理解しにくいかもしれないが，とりあえず全文をさっと通読して，文章のタイプとおおよその内容を把握することが大事である。樽の水に映った月を見て月が落ちてきたと誤解した村人たちは，翌朝月がないのを見て，本当はそうでないのに盗まれたと「判断した」（decided）のである。doubt（that）… は「…ではないと思う」の意で不適当。find（that）… は「…だということがわかる」という意味だが，実際に盗まれたわけではなく，村人たちが「そう思った」だけなので不適当。recognize（that）… は「…だと認める」の意。

Ex. He *recognized that* he was wrong.（彼は自分が間違っていると認めた。）

（2） they began to worry（長老たちは心配し始めた）に続く文 The people of Chelm … は，彼らの心配の内容であるが，空所の後では，… had an idea と心配事に対する解決策

が見つかっている。したがって空所には心配事の続きが入ると考えられるので，「どうしたらいいのだろう？」の意の **b** が正解。

（3） the Elders were satisfied は，空所の前に述べられている解決策が見つかって「満足した」ということ。しかし1文をはさんで But then … とあり，新たな問題が発見されていることに注意。この流れに合うのは「しばらくの間」の意の **c**。その他の選択肢の意味は，**a**「突然」，**b**「時々」，**d**「その間に」。

（4） 空所の前は「彼はテーブルの上に乗って運ばれなくてはならない」，空所の後ろは「彼の足は貴重な雪を踏まない」の意。したがって「…しないように」と‘目的’を表すものが入ると見当がつけられよう。so that ～ not … で「～が…しないように」の意味を表せる。that 節内では，may や will などが使われることが多い。

（5） ‘send（to ～）for ＋人’で「（～に）‘人’を呼びにやる」の意になるので sent を入れれば「使い走りのギムペルを呼びに台所へ使いの者をやった」の意味にすることができる。‘ask for ＋人’は「‘人’に面会を求める」の意だが，ここでは to the kitchen（台所へ）があるので，「（離れた所へ）呼びに行かせる」の send for ～ が適当。

（6） 空所の前は「宝物の一番よい使い方」，空所の後ろは「それ（＝宝物）が集められた」の意。これを結ぶのに最も適当なのは「（一旦）…したら」の意を表す **c** の once。

Ex. Once you begin, you must continue.（一旦始めたらやめてはいけません。）

as にも‘時’を表す用法があるが，「…しながら」と‘同時性’を表すものなので不可。because を入れると「集めてしまったので」となるが，まだ集めてしまったわけではないので不適当。since は「…して以来ずっと」の意だが，同じくまだ集めていないので不可。it had been gathered up は it has been ～ が sat up との時制の一致で had になったもの。意味的には，過去から見た未来のことを表しているが，once 以下が‘時’の副詞節なので would は使わない。

（7） まず与えられた語から，be provided with ～（～を与えられる）のつながりが見つかっただろうか。これがわかれば，次に主語と with の目的語を考えればよい。主語としては the community（＝ Chelm），with の目的語には a steady income（定収入）を持ってくれば，the community would be provided with a steady income となり「（金の卵を産むガチョウを買えば）チェルムに定収入が与えられるだろう」とうまく文脈がつながる。

（8） 物がより大きく見える眼鏡を買ったらどうなるか，という部分。家も通りも店もより大きく見えるだろう，と述べたのに続けて「（　ⓗ　）が大きく見えたら，それは大きくなるだろう。そうすれば，それはもう村ではなく町になるだろう。」と言っている。空所は後の it〔It〕が受けるものと同じである。したがって，Chelm が入る。

（9） この話でキーワードになっている語。彼らが心配しているのは雪（＝宝）が踏みつけられること。「踏みつける」の意の動詞としては trample が他の箇所にも出てきているので，これを利用すればよい。

（10） 「村人たちは宝のないままであったが」に続くところ。空所の後の for the next year は，その前の段落にある next Hanukkah を受けたものである。つまり「次のハヌカー祭の時にはうまくやろう」という長老たちの計画を受けている。村人たちは長老たち

のことを褒めたたえ，頼りにしていたのだから，空所には肯定的な意味の語が入るはず。したがって正解は **c** の hope である。**a** concern（心配），**b** despair（絶望），**d** regret（後悔）はいずれも否定的な意味なので不適当。

(11) ①「結局失敗してしまったアイデアを出した人」最初に使いに窓をノックしてまわらせようというアイデアを出したのは Silly Tudras であるが，その後 Dopey Lekisch がそのアイデアの問題点を挙げ，結局は「使いをテーブルに乗せて４人で運ぶ」という解決策を Shmerel the Ox が考え出し，それを実行に移したのである。したがって，正解は Shmerel the Ox。

②「チェルムで一番高齢の人」チェルムの中でも高齢の７人が seven Elders であるが，ℓ. 12 ～ 13 にあるようにその長老たちの中でも一番年長なのは Gronam the Great Fool である。

全訳

チェルムは愚か者の村で，老いも若きも愚か者だった。ある夜，誰かが水の入った樽に月が映っているのを目にした。チェルムの人々は月が中に落ちたのだと判断した。人々は月が逃げ出さないように樽に堅く封をした。朝，樽が開けられて月がないのを見ると，村人たちは月が盗まれたのだと考えた。彼らは警察を呼びにやり，盗人が見つからないとわかって，チェルムの愚か者は嘆き悲しんだ。

チェルムの愚か者の中で最も名高いのは，７人の長老たちだった。彼らはこの村で最も年長で，最も偉大な愚か者だったので，彼らがチェルムを治めていた。彼らは白いあごひげを生やし，あまりにもあれこれ考えるために，額ははげ上がっていた。

かつて，ハヌカー祭の夜に雪が一晩中降ったことがあった。雪は銀のテーブルクロスのようにチェルム全体を覆った。月が輝き，星が瞬いて，雪は真珠やダイヤモンドのようにちらちらと光った。

その晩，７人の長老たちは額にしわを寄せ，座って考え込んでいた。村には金が必要だったが，どこで金を手に入れられるのかわからなかったのだ。突然，７人の中の最年長者，おおまぬけのグロナムが叫んだ，「雪は銀なのだ！」

「雪の中に真珠があるぞ！」と別の長老が叫んだ。

「それにダイヤモンドもある！」とまた別の長老が大声で叫んだ。

チェルムの長老たちには，宝が空から降ってきたことがはっきりした。

しかしすぐに彼らは心配し始めた。チェルムの人たちは出歩くのが好きで，きっと宝を踏みつけてしまうだろう。どうしたものだろうか？　とんまのトゥドラスに考えがあった。

「使いをやって窓という窓全部をノックさせて，銀，真珠，ダイヤが全部無事に集められるまでは家の中にいなければいけない，とみんなに伝えよう。」

しばらくは長老たちはその考えに満足していた。彼らはこの賢い考えに賛成して両手をすり合わせた。ところがその時，ぐずのレキッシュがあっと驚いて大声で叫んだ。「使い自身が宝を踏みつけちゃうぞ。」

長老たちはレキッシュの言うことが正しいと気づき，再び広い額にしわを寄せてこの問題を解決しようと努力した。

「わかったぞ！」と，のろまのシュメレルが叫んだ。

「何だ，何だ」と，長老たちは急かした。

「使いは歩いて行ってはだめだ。足で貴重な雪を踏まないように，彼をテーブルに乗せて運ばなければならない。」

誰もがのろまのシュメレルの解決策に喜んだ。そして長老たちは，拍手して，自分たちはなんと賢いことかと感嘆した。

長老たちは直ちに使い走りのギムペルを呼びに台所に人をやって，ギムペルをテーブルの上に立たせた。さて，誰がテーブルを運ぶのだろうか？　幸いなことに，台所にはコックのトライトル，じゃがいもむき係のベレル，サラダ混ぜ係のユケル，それに村のヤギの世話係のヨンテルがいた。４人全員がギムペルが立つテーブルを持ち上げるように命じられた。それぞれがテーブルの脚の１つを持った。上にはギムペルが立ち，村人の家の窓を叩くための木槌を握りしめていた。彼らは出発した。

窓ごとにギムペルは木槌でノックして，大声で叫んだ。「今夜は誰も家を出ないこと。宝が空から降ってきたので，それを踏むのは厳禁です。」

チェルムの人々は長老たちの言うことに従って，一晩中家の中にいた。その間，長老たち自身は寝ずに起きていて，一度宝が集められたらそれをどのように使うのが一番よいか考え出そうとしていた。

とんまのトゥドラスはそれを売って金の卵を産むガチョウを買うことを提案した。そうすれば村には定収入が入るようになるだろう。

ぐずのレキッシュには別の考えがあった。チェルムの住人たちみんなに物がより大きく見える眼鏡を買えばいいじゃないか。そうしたら家，通り，店がみんな，より大きく見えるようになって，もちろん，チェルムも大きく「見える」だろう。それはつまり，チェルムが大きく「なるだろう」ということだ。チェルムはもう村ではなくなって，大きな町になることだろう。

他にも同じように賢い考えがあった。しかし長老たちが，自分たちが出したさまざまな計画を比較検討している間に，朝がきて，日が昇った。彼らが窓の外を見ると，ああなんと，雪が踏み荒らされているではないか。テーブルを運んだ者たちの重いブーツが宝を台無しにしてしまったのだ。

チェルムの長老たちは白いあごひげをつかんで，自分たちが間違いを犯したことをお互いに認め合った。きっと，使い走りのギムペルを支えるテーブルを運んだ４人の男たちを，別の４人が運ぶべきではなかったか，と彼らは考えた。

長々と協議したあげく，長老たちは，もし次のハヌカー祭の時に再び空から宝が降ってくることがあったら，それこそまさしく自分たちがすることだと決めたのだった。

村人たちは宝のないままであったが，彼らは翌年の期待に胸をふくらませて，長老たちを褒めたたえた。どんなに問題が難しくても，彼らはいつも必ずや解決策を見つけてくれると期待できるものだと村人たちにはわかっていたのである。

注

ℓ.1　◇spy ～「～を目にする」

ℓ.2　◇barrel「樽」

ℓ.5　◇moan「嘆く」

ℓ.10 ◇shimmer「（反射して）ちらちら光る」

ℓ. 11 ◇ ponder「熟考する」

ℓ. 13 ◇ Gronam the Great Fool

○ Gronam が名前，the Great Fool が称号を表している。その他の登場人物も同じように紹介されている。

cf. Alexander *the Great*（アレキサンダー大王）

ℓ. 23 ◇ in consternation「非常に驚いて」

ℓ. 27 ◇ I've got it!「わかった！」

ℓ. 28 ◇ plead「嘆願する」

ℓ. 38 ◇ Off they went.

○ They went off. の副詞 off が文頭に出た形。通常運動の方向などを表す副詞が文頭に出るとその後ろでは V ＋ S という倒置が起こるが，このように主語が人称代名詞の時は S ＋ V のままである。

ℓ. 42 ◇ sit up「寝ずに起きている」（＝ stay up）

ℓ. 50 ◇ weigh ～「～を比較考察する」

ℓ. 57 ◇ deliberation「討議；協議」

ℓ. 60 ◇ count on ～ to …「～が…するのを頼りにする；期待する」

【5】

解答

Day	Time	Planned Activity
Monday		
Tuesday		
Wednesday	12:00	Meet friend for lunch
Thursday		
Friday	*6:30 P.M.〔18:30〕*	*Have dinner（with Eddie and Brenda）*
Saturday	*3:00 P.M.〔15:00〕*	*Go to〔Attend〕a wedding*
Sunday		

（1） T　（2） F　（3） T　（4） F　（5） F
（6） T　（7） T　（8） F　（9） F　（10） F

Script

CD 4～5

Eddie：Hello, Cantor residence.

June ：Hello, is this Eddie?

Eddie：Yes, this is Edward Cantor speaking.

June ：Edward Cantor Sr. or Edward Cantor Jr.?

Eddie : Edward Cantor Jr.

June : *Eddie*, it's me, June.

Eddie : June! How are you doing? It's been ages!

June : Eddie, you had me confused for a moment. I thought I was talking to your father. Why were you being so formal?

Eddie : I've been expecting a call from Specter & Specter.

June : The Wall Street law firm?

Eddie : Yeah. I had an interview with them on Friday and I was hoping they might be calling to ask me to come in for a second interview.

June : So I guess that means you graduated from law school.

Eddie : Yes, last June. But it hasn't been easy finding a position.

June : I'm sure you'll find something if you hang in there. I was just calling to see if you felt like meeting some evening and having a dinner together or something.

Eddie : I'd love to June, b ...

June : Great. How about tomorrow, then? I know a great Mexican place.

Eddie : I'd love to see you, but ...

June : Or Wednesday if you're busy tomorrow. I could pick you up after work. I usually get through at five-thirty. We could do French if you don't feel like Mexican.

Eddie : Thanks, but you know I really should be home in case I get a call.

June : From Wall Street?

Eddie : It's not only the one firm. I've gone to three interviews in the last ten days.

June : But surely they don't expect you to sit around next to the phone for the rest of the month waiting for a call? Don't you have an answering machine?

Eddie : Yeah, but what if I went out just on the night when my big chance came?

June : Eddie, this isn't like you. You used to be able to relax. Why don't I pick you up on Wednesday around six and take you out to somewhere fun?

Eddie : No, definitely not Wednesday. I've got another interview at eight-thirty in the morning on Thursday and I don't want to go out the night before.

June : Then what about Friday? Nobody holds interviews on Saturday morning.

Eddie : Well, I don't know. Maybe this isn't such a good time to be going out partying.

June : Eddie, I'm not talking about doing anything wild, just dinner and a couple of drinks. I'll tell you what. I'll invite Brenda, a friend of mine. She's working for a law office in New York. Maybe she could give you some good tips about finding a position. I'll be meeting her for lunch at noon on Wednesday. I could ask her to come along on Friday.

Eddie : In New York? Who is she with?

June : I don't remember. I think she works on housing and family problems.

Eddie : Oh. I'm interested in corporate law.

June : Eddie! You've really changed. Don't be so narrow-minded. Just because she's not a big company lawyer doesn't mean you wouldn't have anything to talk about.

Eddie : All right, all right. I'll meet her ... I mean I'll be glad to have dinner with both of you. I'm sorry, I've just been stressed out about the job search. But not Mexican, OK? Or Indian. I don't think my stomach can handle anything spicy.

June : How about pasta? I know a wonderful Italian place on 14th Street called Carmen's.

Eddie : Carmen's? Oh yeah, I know the place. It's really good. Could we do it Saturday?

June : No, my cousin is getting married at three o'clock. It's a long drive so I won't get back to Staten Island until late.

Eddie : OK, then Friday it is.

June : Great. Since you know where it is, why don't we just meet at Carmen's?

Eddie : OK. Around seven?

June : Better make it half an hour earlier. They don't take reservations and they get pretty crowded on the weekends.

Eddie：OK then, see you at half past six.

〔671 words〕

全訳

エディ：もしもし，カンターです。

ジュン：もしもし，エディ？

エディ：はい，エドワード・カンターです。

ジュン：お父様のエドワード・カンターさんですか，それともご子息のエドワード・カンターさんですか。

エディ：息子のエドワード・カンターです。

ジュン：エディ，私よ，ジュン。

エディ：やあ，ジュン！　元気かい？　久しぶりだね。

ジュン：エディ，一瞬混乱したわよ。お父さんに話してるんだと思ったわ。何でそんなに堅苦しかったの？

エディ：スペクター・アンド・スペクター社からの電話を待ってるんだ。

ジュン：ウォール街にある法律事務所？

エディ：そう。金曜日に面接があったんだけど，２次面接に来るようにって電話があるのを待ってるんだ。

ジュン：ということは，ロー・スクールを卒業したのね。

エディ：うん，６月にね。でも，就職するのは簡単じゃないんだよ。

ジュン：頑張っていれば，きっと何か見つかるわ。電話したのは，近いうちに会って夕食でも一緒にどうかなと思ったんだけど。

エディ：いいね，でも…

ジュン：よかった。じゃ，明日はどう？　メキシコ料理のいいお店を知ってるの。

エディ：そうしたいんだけど…

ジュン：それとも，明日忙しいなら水曜日はどう？　仕事が終わったら迎えに行くけど。たいてい５時半に終わるの。メキシコ料理がいまいちならフランス料理でもいいわ。

エディ：ありがとう。でも，電話があると困るから，家にいないといけないんだ。

ジュン：ウォール街からの？

エディ：１社だけじゃないんだ。この 10 日間で３社面接を受けたんだ。

ジュン：だけど，今月ずっと電話の前にへばり付いて連絡を待ってることはないわよ。留守電はないの？

エディ：ああ，でも，すごいチャンスが来たちょうどその夜に出かけてたらどうする？

ジュン：エディ，あなたらしくないわよ。前はもっと気楽だったじゃない。水曜日の６時頃迎えに行くから，気晴らしにどこか連れて行ってあげるっていうのはどう？

エディ：いや，水曜日は絶対ダメだ。木曜日の朝８時半に別の面接があるから，前日の夜は出かけたくないんだ。

ジュン：じゃ，金曜日はどう？　土曜日の朝に面接を入れる人はいないわよ。

エディ：どうかな。今は出かけて浮かれてる時じゃないと思うんだ。

ジュン：エディ，何も羽目を外そうって言ってるんじゃないの。食事をして２，３杯飲むだ

けよ。それじゃ，こうしましょう。友達のブレンダを呼ぶわ。彼女，ニューヨークの法律事務所に勤めてるの。きっと就職のことでいいヒントをくれるわ。水曜日のお昼に彼女に会うから，金曜日に一緒に来てくれるように誘ってみるわ。

エディ：ニューヨークで？　どこの事務所？

ジュン：覚えてないわ。住宅や家庭問題の専門だと思うけど。

エディ：そう。僕は会社法に関心があるんだ。

ジュン：エディったら！　あなた本当に変わったわね。そんな視野が狭いこと言わないで。彼女が大きな会社の弁護士じゃないからって，何も話すことがないわけじゃないでしょ。

エディ：わかった，わかった。彼女に会うよ…君たち２人と食事するのを楽しみにしてるよ。ごめん，職探しで疲れてたんだ。だけど，メキシコ料理はちょっとね。インド料理もね。辛いものは胃が受け付けそうにないからね。

ジュン：パスタはどう？　14 番街にカルメンズっていうイタリアンのすごくいいお店があるの。

エディ：カルメンズ？　ああ，僕も知ってるよ。いいお店だよね。土曜日にしてもいいかな？

ジュン：だめ。３時にいとこの結婚式があるの。車でだいぶかかるから，スタテン島に戻るのは遅くなるわ。

エディ：それじゃ，金曜日にしよう。

ジュン：いいわ。場所を知ってるなら，カルメンズのお店で会うのでどう？

エディ：いいよ。７時頃でいい？

ジュン：もう 30 分早い方がいいわ。あそこは予約ができないし，週末は結構混むのよ。

エディ：わかった。じゃ，６時半に。

注

ℓ. 1　◇ Cantor residence「（こちらは）Cantor（家）です」電話に出る時のややフォーマルな表現。

ℓ. 4　◇ Edward Cantor Sr. or Edward Cantor Jr.?

○父子が同名の場合，父を the Senior，息子を the Junior と呼ぶ。

ℓ. 7　◇ it's been ages「久しぶりですね」

ℓ. 8　◇ you had me confused for a moment「あなたは一瞬私を混乱させた」

ℓ. 10 ◇ expect a call from ～「～の電話を待つ」

ℓ. 13 ◇ come in for an interview「面接に来る」

ℓ. 14 ◇ I guess that means …「ということは，つまり…ということですね」

ℓ. 15 ◇ it hasn't been easy …*ing*「…するのは簡単ではない」

ℓ. 16 ◇ hang in there「頑張り続ける」

◇ I was just calling to see if …「…かどうか聞くために電話をしたんです」

ℓ. 17 ◇ or something〔日本語の「～とか」に当たる，断定を避ける時の表現〕

ℓ. 18 ◇ I'd love to, but …「そうしたいんだけど，…」誘いを断る時の表現。

ℓ. 21 ◇ pick ～ up「～を（車で）迎えに行く」

ℓ. 22 ◇ get through「（仕事を）終える」
◇ do French「フランス料理にする」
◇ if you don't feel like Mexican「メキシコ料理がいまいちなら」
ℓ. 23 ◇ in case …「…だといけないから」
ℓ. 26 ◇ sit around next to the phone「電話の前に座ってぼうっとしている」
ℓ. 27 ◇ answering machine「留守番電話」
ℓ. 28 ◇ what if …?「もし…したらどうしよう。」
ℓ. 29 ◇ this isn't like you「あなたらしくない」
◇ Why don't I …?「（私が）…するのはどうですか」提案・申し出の表現。
ℓ. 31 ◇ definitely not …「…は絶対だめだ」強い否定の表現。
ℓ. 34 ◇ party「浮かれ騒ぐ」
ℓ. 35 ◇ do something wild「羽目を外す」
◇ a couple of drinks「２，３杯（軽く）飲むこと」
ℓ. 36 ◇ I'll tell you what.「いい考えがある。」
ℓ. 37 ◇ tip「ヒント」
ℓ. 40 ◇ Who is she with?「彼女はどこ（の会社）で働いているのですか。」
ℓ. 43 ◇ narrow-minded「視野が狭い」
◇ Just because ～ doesn't mean …「ただ～といって…ということにはならない」
ℓ. 46 ◇ be stressed out「疲れ果てる」
ℓ. 47 ◇ handle ～「～を受け付ける」
ℓ. 49 ◇ do it Saturday「（予定などを）土曜日にする〔変える〕」
ℓ. 52 ◇ Friday it is「金曜日にしよう」
ℓ. 53 ◇ why don't we（just）…?「…しませんか？」
ℓ. 55 ◇ Better make it ～ ＝ We'd better make it ～
◇ take reservations「予約を受け付ける」
◇ get pretty crowded「かなり混み合う」